『風をもとめて』

標点

ＩＣＴを活用した学び

県教育庁高校教育課教育情報化推進室長
鶴　海　尚　也

令和元年に示された国のＧＩＧＡスクール構想により、１人１台の学習用端末の導入、校内の無線ＬＡＮ環境の整備、通信回線の高速大容量化等が一体的に進み、子どもたちを取り巻く学校のＩＣＴ環境は劇的に充実した。当初、５年計画であったこの構想は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から大幅に前倒しされ、岡山県では、環境整備のほとんどが令和２年度中に完了している。通常では考えられない規模、期間で整備が進んだが、この間、「子どもたちの学びに必要な学習環境を」「学びを止めてはならない」との思いを共有し、御尽力いただいた全ての関係者に心から敬意を払いたい。

さて、環境が整った後は、活用である。本格的な端末活用が始まって１年以上経過したが、子どもたちの学びに端末が十分活用できているとは言い難い。何時間活用したらよいという物差しはないが、活用の余地はまだまだある。「端末の活用が目的となってはいけない」という声を様々な場面で何度も聞いた。全く同感だが、端末を活用しない理由にはならない。

令和３年１月の中央教育審議会の答申では、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のためには、ＩＣＴは必要不可欠であり、これまでの実践とＩＣＴを最適に組み合わせることで教育の質の向上につなげていくことが必要である、と述べられている。

子どもたちの資質・能力の育成につながる端末活用を進めるために、この際、これまで実施していた様々な教育活動を振り返り、何ができて、何ができていなかったのか、整理してみてはどうだろう。時間や場所、経費などの面から子どもたちに提供したくてもできなかった学びがあふれていると思うが、その中に端末活用のヒントはないだろうか。１人１台端末の導入という変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、子どもたちの学びをより良いものにしていかなければならない。大人の資質・能力が今まさに試されているのだと思う。